

AIマスコはいかがですか？

A I V S . 人間

3年 M・Uさん

「その未来をすてきなものにできるかどうかは、ぼくたち人間の考えかたしだいなんだ。」最後の一文までを読んで、ぼくは一つの疑問を持った。それは、「本当に人間の考え方しだいなのか？未来は人間がAIに負けてしまうのでは？」という疑問である。

たとえば作文の話をする。当然、ぼくは、自分の頭で考えて書く。そのため、漢字をまちがえたり、変な文章になったりして、時間がかかる。ところが最近、ChatGPTというAIが出てきて、まるで人間のように文章を考えて書く。しかも、漢字をまちがえないし、時間もかからない。ただ、AIマスコと同じように、正しいことの判断やさじかげんができない。でも未来は、この本でのピエロみたいな研究者がどんどん改善していき、完ぺきなAIができると思う。そして、ぼくの変な作文よりも、AIによる完ぺきな文章がたくさん出てくる。きっと、さびあ作文コンクールでもAIが優勝だ。未来は人間が負けて、AIによって作られた完ぺきな文章だらけの世界になるだろう。

でもぼくは、そんな完ぺきな世界はつまらないと思う。本の中の飯倉沙和みたいに、完ぺきすぎると、近よりがたくてこわい。AIはご飯と一緒に食べて「おいしいね。」と言いつたりしてくれない。ぼくみたいに場を盛り上げたりできない。仲間を集めたりできるのは、人間だけだ。AIは何でもできるかもしれないけれど、人間にしかできないこともたくさんある。

これこそが、ぼくたち「人間の考え方しだい」なんだとぼくは作者に強く共感した。

※ちなみに、この文章はAIが書いたものではない。